

(様式1)

学校名 (徳島県立阿南養護学校)

校長 (加藤賢治 印)

平成21年度とくしま特別支援総合サポート充実事業計画書
(支援名：特別支援学校の教員による支援)

1 事業内容

「特別支援学校の教員による支援」

① 巡回相談員による指導

ア) 指導方法による助言

巡回する学校	県南地域の希望する就学前機関及び小学校	富岡小学校(承諾済み)	阿南第一中学校(承諾済み)	県南地域の希望する中学校及び高等学校
回数	月4回, 4時間程度	月3回, 4時間程度	月1回, 4時間程度	年間5回程度(随時)
対象とする児童生徒	支援を要する幼児, 児童	通常学級在籍の支援を要する児童	通級指導教室在籍生徒	支援を要する生徒
支援内容	○担任もしくは担当者が支援を要する幼児, 児童を対象として行う事例研究をサポートする。 ○事例研究をとおして問題解決に導く力を養い, 指導者のスキルアップを行う。	○チャレンジクラブの支援 ○チャレンジクラブ支援マニュアル及びツールの作成(法政大 島宗先生よりアドバイス) ○抜き出し及び放課後支援 ○実践研究報告会開催	○通級指導教室における支援 ○通級指導教室の運営及び指導内容等の支援	○進路等に関する相談支援, 情報提供 ○就労に必要な態度やスキルの習得に関する学習支援

イ) 相談支援

要請に応じて, 学校等の教員や保護者に対して, 出張相談・来校相談・電話相談等に応じる。

ウ) 研修支援

県南地域の学校等における校内研修会等への講師派遣をする。

2 本校におけるサポートの特色

阿南養護学校が目指す特別支援学校としてのセンター的機能を次のように考える。

目的は, 地域の各学校が, 自校に在籍する特別な教育的ニーズを有する児童生徒への支援体制をできるだけ早期に確立できるようにサポートすることである。そのための方法として従来は, 阿南養護学校の特別支援教育巡回相談員ができるだけ多くの学校に出向き児童生徒の実態を観察して担任等に助言を行ってきた。しかし, 相談依頼が多くなり数か月待ってもらおう状況も生じている。

そこで、目的を達成するために阿南養護学校のリソースを有効に使う方法として、昨年度より実践研究を行っている通常学級での気になる児童生徒への有効な支援方法を、他の学校でも実施できるようなパッケージに開発しようと考えている。今年度も引き続き支援を継続しながらパッケージの開発を行い、その活用を推進していくことによって、多くの気になる児童生徒の支援に役立ててもらえと考える。また、事例研究をとおして、地域の学校等の指導者自身が、支援を要する子どもへの適切な対応を自ら考え、実践し、問題解決できる力を身につけていけるよう、サポートしていきたいと考える。

さらに、地域のリソースの1つである中学校に設置されている通級指導教室が、より有効な支援の場となるよう、また中学校や高等学校での先を見通した就労及び進路相談につながるよう、特別支援学校が持つノウハウを提供していきたい。

このように、地域からの要請に応じるだけでなく、本校から積極的に働きかけていくことで、地域に発信し、地域のリーダーとなる指導者のスキルアップを目指していけるような支援を行っていきたいと考える。